

輸出事業計画

※申請者名：JA全農あおもり、品目：りんご

1. 輸出における現状と課題

青森県のりんご輸出の歴史は古く、日本産りんご輸出量の9割以上は本県産と言われており、アジア諸国への輸出は、旧正月（春節）時期を中心に本県りんご生産の維持拡大と生産者の収益向上を図るために欠かせない貴重な販売先の一つとなっている。

一方で、生産面では、生産者の高齢化に伴う労力不足から、生産量や品質の確保が求められているほか、「輸出最盛期＝国内市場流通最盛期」であることから、JA選果施設運営のバランスを確保する必要がある。

また、流通面では、積載可能数量や輸送コストの観点から現状では船便がメインの輸送手段となっているものの、輸送途中における高温下での積替えや荷役作業などにより、品質低下が発生していると推察され、鮮度や品質低下を防ぐために、海外の小売店までのコールドチェーンを整備の必要性や、荷口の取扱い方の指導など、輸出業者への周知を徹底する必要がある。

2. 輸出事業計画の取組内容

生産・製造については、園地や技術の円滑な継承や新たな技術の導入などによる労働生産性の向上に向けた取組みを強化し、生産量と品質を確保する。また、各国の検疫条件等を把握し、対応について協議するなど防除体制を整え、輸出に取組む生産者へ栽培指導を行う。さらに県内の各JA集出荷施設の効率的な運営や新設等により、選果能力を強化することで国内及び国外の販売チャンスを獲得し、高値販売に努める。

流通については、鮮度保持処理剤（1-MCP処理）の活用や貯蔵管理（普通冷蔵やCA冷蔵）の徹底により、長期鮮度保持に努め品質低下を防ぐ。

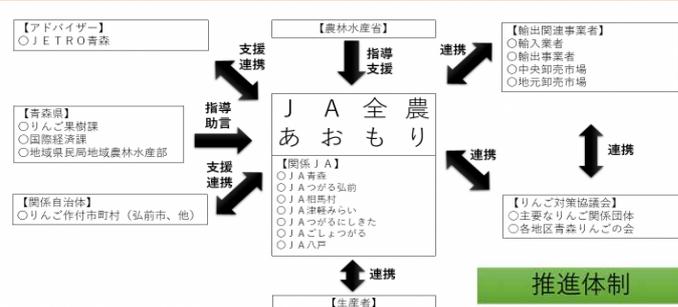
販売については、旧正月需要期以後の販売促進を図るため、JETRO青森や青森県りんご対策協議会など関係機関と連携して更なるマーケティング調査やPR活動を通じ、県産りんごの価値を高め、中所得者層への需要掘起こしを図る。

商流については、JA・主要卸売市場・輸出業者と連携を図り、輸出の販路維持・拡大を進める。



3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

団体名	内容
JETRO 青森	輸出に関する情報提供・助言
青森県	各種補助事業支援、輸出に関する指導
関係自治体	各種補助事業支援、輸出に関する指導
農林水産省	各種補助事業支援、輸出に関する指導
関係JA	生産に関する指導・助言 輸出用りんごの集出荷等
生産者	輸出用りんごの生産管理
輸出関連事業者	輸出用りんごの販売に関する助言 現地での販売に際した情報提供・助言
りんご対策協議会	輸出に関する情報提供・助言
JA全農あおもり	事業者（商談、販路開拓・拡大等）



4. 輸出目標額

りんご		現状（令和2年度）	目標年（令和8年度）
全地区	輸出額(円)	20億	21億
	輸出量 (t)	5,703	6,000
	輸出先国	台湾・香港・タイ・ベトナム・その他	台湾・香港・タイ・ベトナム・その他
	取扱量 (t)	110,730	115,000